

酪農における飼料自給の問題点

八木 義 隆*

YATSUGI, Y. Problems of Self-supporting in Feeding of Milk Cow.

佐賀平原地における「所謂水田酪農」地帯においては特に飼料費が多く、これを如何に改善するかが酪農経営上最も重要な問題点となつている。従つてこの飼料問題を改善する一つの方法として、水田作改善営農試験地において2, 3の調査を行つたのでその概要を報告する。

1. 1乳期当りの飼料費と養分総量 佐賀平原地における飼料費についてみれば、全国平均との比較において購入飼料では殆んど大差はないが、自給飼料においては著しく多く、更に乳牛1頭当りの経営面積が多くなればなる程その傾向はひどくなつている。又養分給与量について見れば、一般に養分の過剰給与がなされておき、折角飼料の自給度を高め単位当りの飼料費を切り下げておきながら、購入飼料はそれに対して何等減量することなく、養分総量1kg当りの産乳量について見れば自給率が高くなればなる程少なくなつている。ここに佐賀平原地における飼料自給及び飼料給与上の大きな問題がある。

2. 給与飼料の分析とその問題点 飼料の給与状況についてみれば掲げた表の通りである。購入飼料はさておき、ここで特に注意しなければならないことは、飼料価格的にも又養分価格的にも非常に高い大麦、小麦の自給が非常に多いということである。これ等の自給は何等飼料費の節減にはならず、むしろ飼料費を割高にさえておき、ここに佐賀平原地における自給飼料費が高い一つの大きな原因がある。次に栽培飼料についてみれば養分価格は濃厚飼料より遙かに安い、しかし青刈飼料の年間需給よりいつて必ずしも計画的な栽培はなされておらず、飼料経済より見た場合必ずしも合理的な給与がなされていない。従つて無駄が非常に多く、栽培飼料そのものが可成り割高になつている。栽培飼料の1kg当りの価格及び養分総量1kg当りの価格について見れば表の通りである。しかしながら、これ等の作物には価格では割割れない夫々の特長

がある。即ち青刈燕麦、イタリアンライグラスは採草期間が非常に長く、飼料需給上非常に有利であり、又青刈玉蜀黍は養分価格は割合高いけれども短期間に成育し、且つ採草量が非常に多い、又紫雲英は价格的に非常に安いけれども生育期間が非常に長く、且つ採草期間が極めて短い。セブントップは養分価格は非常に高いけれども、冬期間の多汁性飼料としては極めてよく泌乳量も非常に増加する。従つて、これ等の特長を如何に有利に利用し、飼料需給全体の中で如何に体系化し、又利用方法を確立するか充分検討しなければならない。次は野草であるが佐賀平原地のような水田地帯においては採草地が非常に少なく、従つて採草に多くの労働を要し、且つ1時間当りの採草量も非常に少い。そのために价格的に栽培飼料と比較して必ずしも安くなつていない。今後はサンマーサイレーズの利用及び採草地の草生改良等により夏期の青刈飼料の需給の合理化につとめることが大切である。サイレーズについては特に冬期間の多汁性飼料の需給という目的で青刈燕麦、イタリアンライグラス等が利用され調整されているが、しかし水稲早期作にともなう飼料作物の栽培が普及し、冬期間の青刈飼料の給与が可能になつた現在、サイレーズに対する考え方は大きく変えなければならない。即ちサイレーズは安い飼料あるいは採草期間が非常に短い飼料を貯蔵して、長期間利用できるという所に大きな意義があるのであつて、燕麦、イタリアンライグラスのように採草期間が非常に長いものをサイレーズとするよりも、紫雲英のような価格の安い、しかも採草期間の短いもののサイレーズ化が考えられなければならない。

3. むすび 要するに佐賀平原地における飼料自給上の大きな問題点は主産物による自給が非常に多いということ、及び自給飼料そのものの生産原価が非常に高く、且つ計画的な生産がなされていないということであり、又飼料の給与技術が拙く過剰給与がなされているということである。従つて今後飼料費を飛躍的に節減するためには、先ず主産物による自給を青刈飼料

*佐賀県農業試験場

による自給に切り替えるべきであり、又青刈飼料そのものの生産原価の切り下げに大いに務めなければなら

ない。しかして、それ等の給与にあつては飼料計算による合理的な飼料の給与が大切である。

給 与 飼 料 の 分 析

飼 料 名	給 与 量	価 格	T. D. N	全飼料に対する割合		飼料1kg 当り価格	T. D. N/kg 当り価格
				価 格	T. D. N		
	kg	円	kg	%	%	円	円
購入飼料	マ糠(混合)	750.0	17133	477.8	16.70	22.84	35.86
	豆イ塩計	875.0	19247	407.8	18.77	22.00	47.20
	カ	359.4	8574	240.8	8.36	23.86	35.61
	計	125.0	5828	95.3	5.68	46.62	61.15
		55.8	1116	—	2.55	20.00	—
		78.8	1497	—	—	19.00	—
自給	濃厚飼料	359.5	8988	256.3	8.76	25.00	35.07
	粗飼料	460.0	13800	360.6	13.46	30.00	38.27
	計	61.6	1130	48.9	1.10	18.34	23.11
		881.1	23918	665.8	23.32	—	—
給	葉ん他	721.2	2885	267.6	2.81	4.00	10.78
	の計	145.0	142	9.4	7.62	0.98	15.11
		8.8	40	2.0	0.32	4.55	20.00
飼料	スラシぶ他	1758.8	3142	241.0	3.06	1.79	13.04
	グライコ	652.5	1450	82.9	1.41	2.22	17.49
	ライコ	3065.0	2075	306.5	2.02	0.68	6.77
	ライカ	1978.8	3813	186.0	3.72	5.29	1.93
	の計	351.3	1290	21.4	1.26	3.67	60.28
		156.3	426	13.3	0.42	3.73	32.03
		7962.7	12196	851.1	11.89	—	—
野	2516.3	4087	229.0	3.98	1.62	17.85	
サ	2727.5	5906	270.0	5.76	7.60	2.17	21.87